



真理はわれらを自由にする

別府大学 司書課程

News Letter

「三本の矢」を放つ！

本学における

- ①司書課程
- ②司書・司書補講習
- ③司書資格特別講座



別府大学 文学部 司書課程
工藤 邦彦

別府大学・短期大学部では、これまで多くの司書有資格者を輩出し、大分県内にとどまらず、全国津々浦々の公共・学校・大学・専門図書館など様々な館種で勤務しております。このニュースレターでも、そのような卒業生や講習修了者の活躍ぶりをはじめ、司書課程で実施している各種企画行事の紹介、併せて文部科学大臣委嘱で開講しております司書・司書補講習に関するトピックスを随時紹介していく所存です。

さて、我が国における司書養成教育を鑑みますと、2008年の図書館法改正を受け、2012年度より大学における「図書館に関する科目」の履修が始まり、はや4年余りが経過しました。これは本学のような司書講習開講大学の場合については、長らく開講してきた司書・司書補講習のための省令科目履修と、講習から独立した形である「図書館に関する科目」履修を併用するかたちで運営において試行錯誤を重ねた時期であったともいえます。一方では、この制度改正で図書館法第5条（司書及び司書補の資格）の第1号と第2号に該当する者とが峻別されかつ、履修上は独立した形式となったため、特段の問題が無いとも受け取ることもできます。しかしながら、司書という国家資格取得を供給する側である大学にとっては、今まで以上に履修の中身、いわゆる「何を学んだ

か」という、質の保証とどのように向き合うのかという点では、一種アポリアに陥った感もあります。このアポリアから脱するため、供給側である課程・講習運営者には、従来の資格付与に加え、学習者に何らかの成果物ともなる履修証明を明示するといった新機軸を打ち出すことが肝要であるという認識に至りました。

そこで具体的なアクションとして、本学では今年度より司書講習の履修日程に合わせて、本学の在学生はもとより、これから図書館で働くことを考えている方、すでに図書館に勤務しキャリアアップを図りたい方を対象に、図書館の専門的職員としての新たな知見、技術の修得を目指した司書資格特別講座を新設する予定です。詳細については、随時本学司書講習公式ウェブサイトにて広報してまいりますので、専用ページにアクセスいただければ幸いです。

今後は、①司書課程、②司書・司書補講習、③司書資格特別講座という「三本の矢」を放つことで、我が国における司書養成教育の一助となるべく、運営に鋭意取り組んでまいりますので、なにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

別府大学司書課程および司書・司書補講習のあゆみと現状

別府大学では、図書館で働く専門職である司書養成の一環として、県下で唯一の司書課程を設置し、さらに集中講義・演習形式による司書・司書補講習を開講しています。

司書養成教育では、現在の高度情報化社会において多様化する情報資源・技術を反映した図書館奉仕・情報サービスの提供に主眼を置いた先進的な実学教育を実践しています。

司書課程

司書課程は、1961年の開講以来、約半世紀の間約3,600人の司書有資格者を社会に送り出しています。

昨今の厳しい雇用情勢にも関わらず、司書資格を取得した学生の多くが県内・外の図書館等で勤務しており、情報専門職＝司書として図書館運営の現場を支えています。

2012年4月から、図書館法施行規則の一部を改正する省令が施行されたことを受け、本年度より司書資格取得に必要な科目に関するカリキュラムの変更を行いました。表1のとおり、図書館情報学に関わる基礎科目や図書館サービス・情報資源に関する科目、および選択科目（計24単位）を履修することで、司書資格の取得ができます。本学では図書館サービス特論において、絵本作りを、図書館総合演習では、電子書籍制作・読み聞かせ・ブックトークを行うなど、特色ある授業を数多く展開しています。

表1 本学における司書資格取得に向けた開講科目一覧

区分	科目	単位
基礎科目	生涯学習概論	2
	図書館概論	2
	図書館情報技術論	2
	図書館制度・経営論	2
図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2
	情報サービス論	2
	児童サービス論	2
	情報サービス演習I(情報検索)	1
図書館情報資源に関する科目	情報サービス演習II(レファレンス)	1
	図書館情報資源概論	2
	情報資源組織論	2
	情報資源組織演習I(目録)	1
選択科目	情報資源組織演習II(分類)	1
	図書館基礎特論(アーカイブズ)	1
	図書館サービス特論(絵本作製)	1
	図書館情報資源特論(歴史資料)	1
	図書館総合演習(電子書籍制作・読み聞かせ・ブックトーク)	1

また、教員免許状の取得とあわせて、児童・生徒の健全な教養の育成と読書活動、資料活用を目的とした学校図書館の運営に従事する司書教諭の資格取得も可能です。(表2)

表2 司書教諭資格取得に必要な科目一覧

必修科目	単位
学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成 司書に関する科目「情報資源組織論」及び「図書館情報資源概論」と共通(※2科目両方の取得が必要です。)	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2

司書・司書補講習

別府大学では、1961年以来、文部科学大臣委嘱の「司書・司書補講習」を実施しています。2016年度に全国9大学で「司書・司書補講習」が行われましたが、中でも本学の歴史は古く、開講当初より、わが国の図書館界に大きな足跡を残した諸先生方が講師に名を連ねるなど、すぐれた講師陣と恵まれた教育・宿泊環境などと相まって「司書講習の別府大学」として、高い評価を受けています。これまで(2016年度現在)司書6,833人、司書補3,498人、計10,331人の修了者を出し、その多くが全国各地の図書館で活躍しています。

このほか、2004年から、毎年「子どもの読書活動推進研修会」を実施し、学校図書館司書など子どもの読書活動に携わっている人々に研修の機会を設けています。また、2009年には、小・中学校教師向けの研修用DVD教材『深め発見する喜び 言語力とメディア活用能力の向上を目指す教師の支援』を作成し、県内の小・中学校に配布しました。2014年度からは、講習修了者を対象に情報提供能力、コミュニケーション技法の能力開発に主眼を置いた「司書資格プラスα講座」を開催しています。

司書講習は、多様なバックグラウンドを有する人材を司書として養成できる唯一の方法であり、幅広い知識と視野の獲得を目指す実学教育に主眼を置いています。

セレンディピティを探す旅に出よう

人には偶然出会ったもののなかに、思わぬ発見や新しい価値を見つけ出す力があり、これを、セレンディピティと言います。今回は、私が経験した中でも思い出深いエピソードをご紹介します。

初めてのセレンディピティを経験したのは、幼少の頃です。私は、身体が弱く、家にいるよりも病院のベッドの上にいる方が多い幼少期を過ごしました。私には、2つ年上の兄がいます。兄は、ピアノを弾いたり絵を描いたりする一方で、丈夫な身体をしており、スポーツをしたり海外に行ったりと実に自由な人です。私は、何かにつけて、兄と自分とを比較して、自分の不甲斐なさを感じていました。そんなある日のこと、父が一冊の本をくれました。それは、沢木耕太郎さんの『深夜特急』という本です。ざっくり説明すると、マカオからロンドンまでを乗り合いバスで行く貧乏旅の記録です。読み進めていくと、マカオの華やかなカジノの風景やインドの砂埃が舞う中を大勢の人が行き交う風景などの映像が頭に浮かび、まるで自分が旅をしているかのようにとても自由な気持ちになったことを覚えています。この本との出会いによって、本には様々な世界があり、それと出会うことで何処へでも行けるということを知りました。言い換えると、人は本によって自由になれるということを知ったのです。これは、私にとって、思わぬ出会いから生まれた新しい発見でした。

次のエピソードは、大学生の頃のことです。学生時代は、講義を最前列で受け、学食の片隅でスパイシーなチーズカレーを食べ、空いた時間は図書館で小説を読み漁る生活をしていました。ある日、いつものように図書館で過ごしていると、「いつも何を読んでいるの?」と声をかけられました。驚いて声がした方に顔を向けると、私と同じように講義を最前列で受けている男子学生でした。彼は、それまで一冊の本もまともに読んだことがなく、私がいつも夢中で何かを読んでいることを不思議に思っていたらしいのです。そんなことがあってから、彼は、私に会う度に「今は何を読んでいるのか?」「どの本がオススメか?」と話しかけてくるようになりました。気づけば、お酒を酌み交わしながら様々な本に関する議論をする仲になっていました。その彼とは、10年以上が経った今でも親交があります。それは、本が繋いだ縁であり、図書館で築いた人間関係です。まさか、図書館で親友と呼べる友人ができるとは思っていませんでした。これも一つのセレンディピティではないかと思えます。

最後に、これから司書を目指す皆様へのメッセージがあります。図書館には、様々なセレンディピティが溢れています。ぜひ、図書館にセレンディピティを探す旅に出てください。そこには、きっと、素敵な出会いが待っていると思います。



佐藤 晋之
(別府大学非常勤講師)

司書課程の先輩から [司書としての抱負]

大分の未来は司書にあり～多様化する司書のしごと～

私は司書として大分県に貢献したいと思い、県職の司書を志望しました。司書は専門職ですが、その必要性はまだ広く認知されていません。「司書って何をするの?」なんて言われるのはいつものことです。しかし、司書は今後の大分、ひいては日本に必要な存在だと私は思っています。

では、具体的にどう貢献できるのか。現在大分県では、「安心・活力・発展の大分県」を目標に様々な取り組みが行われています。中でも、「子育て満足度日本一」「健康寿命日本一」「学校教育の更なる充実」などの取り組みでは、司書として大いに貢献できると考えています。

まず「子育て満足度日本一」ですが、お母さんたちに安心して子育てしてもらええる環境を整えることが重要です。そのため、絵本の読み聞かせ指導を通して親子がコミュニケーションをとれるように支援したり、絵本のそばに育児本や育児支援・相談のチラシを置いて育児に関する情報が手に入るようにしたりといった乳幼児サービスが考えられます。

次に「健康寿命日本一」ですが、元気な高齢者が増えるにあたって、充実した余暇活動の重要性が高まってくると考えます。そのため、余暇活動に役立つチラシやパンフレット、多様な



木田 朱音
(文学部 国際言語・文化学科
日本語コース 2016年度卒業生)

団体や施設の情報などをファイル資料にして提供したり、社交ダンスや海外旅行など高齢者が興味・関心のあるテーマについては講演会やワークショップといった行事で対応したりといった高齢者サービスが考えられます。また、介護実習で同じ雑誌をつまらなそうに読む高齢者を見た経験から、病院や老人ホームなどへの本や朗読CDなどの団体貸し出しの普及の必要性も強く感じました。

最後に「学校教育の更なる充実」ですが、これからの教育はアクティブ・ラーニング（課題解決型教育）を目指しています。解決策のないまま様々な課題が山積している今、それらの課題を解決していく世代の育成が必要とされているのです。温故知新とはよく言ったものですが、未知の課題に対するには、古いものをたずね求めて新たな知識を見出す作業が必要になります。そのため、調べもの学習などの支援として図書館で欲しい本を探せるように日本十進分類法を教授したり、本だけでは足りない部分を補えるよう情報メディアの使い方も積極的に教授したりといった学習支援サービスが考えられます。

他にも、障害者サービスや多文化サービスなど、司書として貢献できることはたくさんあります。このように多面的に活躍できるところが司書の魅力だと思っています。今後は、「司書がいないと困る」と言ってもらえるくらい、司書の存在意義を高められるよう頑張っていきたいと思っています!
(編集者注：木田さんは平成29年度から県立図書館の司書として勤務予定)

TOPICS

オープンキャンパスで司書課程を紹介

7月18日に開催された別府大学・別府大学短期大学部合同オープンキャンパスにあわせて、図書館2階に司書課程の紹介コーナーを設置しました。

コーナーでは、司書課程の取り組みや受講生が作成した手作り絵本とともに、実際に図書館の現場で活躍する本学司書課程の先輩たちを紹介しました。見学された入学希望者の生徒さんや保護者のなかには「別府大学といえば司書課程」という評判をきいてやってきたという方も少なくなく、これまでの実績を実感することができました。



情報検索技術者検定（3級）の対策セミナーおよび試験を実施

11月27日、別府大学にて司書課程履修者および司書講習受講者の希望者を対象に情報検索技術者検定（3級）の試験をおこないました。情報検索技術者検定は情報科学技術協会が主催する情報活用の専門家育成を目的とした検定です。司書課程では検定に先駆けて10月8日に協会から講師をお招きし、3級の対策セミナーを実施しました。司書としての情報活用能力向上を図るとともに、学生の情報リテラシー育成の一環になればと考えています。



図書館見学ツアーを実施

11月20日（日）、司書課程と別府大学附属図書館の共催による図書館見学ツアーを実施しました。毎年恒例の図書館見学ツアーですが、今年は九州大学伊都キャンパスにある伊都図書館と福岡市総合図書館、福岡市博物館の見学に行きました。伊都図書館では学生の学習支援に対するサービスコーナーや全自動書架を見学し、福岡総合図書館では館内見学と合わせて、本校の司書講習を修了した職員から公共図書館の心構えについてお話をうかがうことができました。

